

本気で学ぶ 丈夫で 心豊かな 本庄っ子

ほんじょう

HPにて日々の学習、学年・学校行事を伝える「今月のほんじょう」をNo.54まで掲載中 上のQRコードをご利用ください



令和5年度1月号
三田市立本庄小学校

新年おめでとうございます

今年もよろしく願いいたします

校長 藤田 洋子

令和6年(2024年)の幕開けです。今年の干支は「甲辰(きのえたつ)」。「甲」の文字は鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表しています。また、生命や物事の始まり、成長も意味するそうです。「辰」は「振るう」という文字に由来し、自然万物が振動し、草木が生長して活力が旺盛になる状態を表します。また、辰は竜(龍)のことであり十二支の中で唯一の架空の生き物です。東洋で権力・隆盛の象徴として親しまれてきた龍が身近な存在であったことから干支に選ばれたとも言われているそうです。このように勢いさかんな様子を象徴する年が明けて早々の震災、連日の報道に心が痛みます。いつ、どのようなことが起こるか分からないからこそ、今を大切に生きなければならぬ、そして、日々の備えが重要なのだと思います。20日には地域防災訓練を行います。ぜひ多くの皆さまのご参加をお願いいたします。

今年も子どもたちとともに過ごす中で、本庄小学校の「隆盛」や「成長」を支えていくことができるよう、職員一同、頑張りたいと思います。保護者ならびに地域の皆様方には今後もお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、3学期の始業式では、子どもたちに「どんな学年のまとめをするのか」という話をしました。2学期終業式の振り返り漢字で6人に学年代表として「その漢字を選んだ理由」を発表してもらいました。振り返りを大切にしつつ、新しい年を迎え、新しい思いをもって6年生は中学校に向けて、5年生は最上級生に向けてなど、各学年、次を見据えて取り組んでくれることを願っています。

また、この日、大谷選手からのグローブのプレゼントをお披露目しました。子どもたちは大歓声。6年生に代表してみんなの前でキャッチボールしてもらいました。日頃、運動場から聞こえる声が少ない本庄小学校です。これを機会に外で活動する元気な声が聞こえてくるのを待っています。

本庄フェスティバル(全学年)

12月15日に本庄フェスティバルを開催しました。子どもたちが楽しみにしているゲーム大会です。昨年度から景品づくりをせずに、お店の内容を充実させるようにし、各学年ともに随所に工夫の見られるお店を展開しました。

1年生は合ったどんぐりや松ぼっくり、ビー玉やマグネットを活用してのゲームです。釣りや迷路、的入れに工夫して取り入れました。2・3・4年生は一室でお店を開きました。黒豆似顔絵や黒豆すくい、風力自動車のレースといった、



(プレゼントのお披露目)



(準備の時間にみんなでじゃんけん大会)

普段の学習内容を取り入れてのゲームでした。後ろからうちわでパタパタあおいて風を送る自動車レースは、車輪の軸のブレが微妙に走りに影響することが、かえってゲームを面白くさせていました。5・6年生は広島や自然学校をモチーフにしたストラックアウト、コインはじき、迷路など盛りだくさんでした。

子どもたちの発想には様々な場面で驚かされます。単純なゲームでも何を目的としているのかとか、どのような工夫が遊ぶ人の気持ちを惹きつけるのかなど、手作りゲームには自己満足ではない他者への配慮が欠かせません。このような取り組みが子どもたちの心を豊かにし、人とのかかわりを温かいものに行っているのだと思います。

黒豆の脱粒(3・4年生)

12月18日、暖かい日差しを浴びながら黒豆の脱粒をしました。今年ありがたいことに脱粒機をお借りすることができました。子どもたちは、例年通り、さやを踏んで乾燥した黒豆を出す方法と機械を通す方法との2種類を体験しました。体育館周辺に干していたたくさんの黒豆ですが、1時間ほどの作業で豆と殻とに分けることができました。割れた豆や皮がめくれかかったものなども含めて全部で約9キロ。5月に始まった黒豆の栽培活動での収穫量です。今年は猛暑の影響を受けてか、小粒でやや少なめでした。11月には枝豆を収穫の時期をずらして味わい、12月にはJA青年部のみなさんにポン菓子をつくっていただき、1月に最後の味噌づくり。黒豆の魅力を堪能できる本庄ならではの取り組みです。



(脱粒機が大活躍)

うど小屋づくり(5・6年生)

前日に行った黒豆の脱粒に引き続き、うど小屋づくりにも前澤さんとJA青年部さんにお世話になりました。11月に編んだ苦を竹組の小屋にくくりつけ、小屋の内部に光が入らないようにしていきました。小屋の中には脚立で足場を組み安全に作業ができるようにしています。小屋の内側と外側に分かれて互いに声を掛け合ってロープを渡してくくっていきました。最後は小屋をまたぐようにして藁をのせて完成です。昨年度までは収穫の時期が卒業間際になり、どうしても慌ただしさがありました。今年ができるだけ早い時期に収穫ができるように、いつもより早めに伏せ込みをする予定です。ただ、気温にかなり影響されるため、思うようにいかないかもしれません。4月からの株分けや小屋の片付けから収穫と試食までを完結できればと思っています。



(高いところはJAさんに)

餅つき大会(全学年)

12月22日、今年最後の一大イベント餅つき大会が開かれました。当日の朝は氷点下。顔が凍りつきそうなくらい寒い日でしたが、子どもたちの心は熱くなっていたようです。もち米が予定よりも早くに蒸しあがり、早速、幼稚園さんからつき始めました。杵の扱いに慣れずに悪戦苦闘していましたが、順々にお餅をついたあとは、つきたてのお餅をおなか一杯食べました。子どもたちがついたお餅は鏡餅にして、日頃お世話になっている、JA、郵便局、駐在所、ふれあい創造の里に24日に作ったミニ門松と一緒にお届けしました。こういった日本的な行事はだんだんと少なくなってきていると思います。ですが、和の文化にはどこか温かみがあり、それがとても心地よく感じます。本庄小学校で勤めて3年。この温かさに浸れることに幸せを感じる今日この頃です。



(鏡餅・ミニ門松・しめ縄で迎春)

この日、JA青年部さんがお米と黒豆のポン菓子をつくってくださいました。いつもありがとうございます。